

# 第17回 人権ショートレター 入賞作品 発表



人間らしく生きること、差別や偏見に対して感じたこと、お互いの個性を認め合うことなど、「人権」を大切にする気持ちを手紙に…。全国から620通の応募がありました。入賞作品を紹介します。(佳作はタイトルのみ、敬称略)

人権施策推進課(内線332・333)

## 小・中学生の部

### 「手話」

最優秀賞

大和郡山市 石阪 優季(8歳)

近所のおじさんは耳が聞こえないので、いつも手をふってあいさつをします。この間、手話でありがとうと言ったら、おじさんはいつもよりうれしそうでした。もっと手話をおぼえておじさんと話せるようになりたいです。

### 「あいさつとつながり」

優秀賞

大和郡山市 有本 夏穂(10歳)

登下校の時にはたを持って立って立っているボランティアの方達。暑い日も雨の日も毎日あいさつをしてくれます。あいさつという小さなまほうで大きなつながりを持つことができました。これをもっと広げていきたいです。

### 「愛されているという心を大切に！」

優秀賞

大和郡山市 藤森 美花(13歳)

児童虐待のニュースがよく流れる。両親は自分を愛してくれて、安心できる存在のはずなのに。毎日おびえて暮らすとは、どんなにつらく悲しいことだろう。愛されているという心に傷をつけず大切にしたいと願う。

### 「気づいてる？友だちのSOS」

優秀賞

熊本県八代市 木下 可奈子(12歳)

妹は、朝になると体調不良を訴え学校に行きたがらない。悪ふざけをする友だちがいるからだ。君は遊んでいるつもりでも、彼女にはとても辛いことなんだ。だから、妹を傷つけないで。彼女を嫌な気持ちにさせないで。

### 佳作

「ごめんなさい」 大和郡山市 稲田 鑑(9歳)  
 「それぞれに価値がある」 三重県鈴鹿市 NGUYEN LE HOANG MINH(15歳)  
 「勇気を持とう」 大和郡山市 大西 凜音(10歳)  
 「心が軽くなった」 大和郡山市 村田 葵月(11歳)  
 「言葉は便利で危険」 大和郡山市 北嶋 船人(12歳)

## 高校・一般の部

### 「やっと気づいたこと」

最優秀賞

岐阜県岐阜市 滝川 由佳(25歳)

日本以外の国で「外国人」として差別されたとき、驚いたし考え込んだ。私も日本で、同じ視線を向けて、同じ行動をとっていたかも。心の中に国籍フィルターがあること、自分が差別されるまで気づけなかったね、私。

### 「私を認めてくれた君へ」

優秀賞

富山県富山市 畑山 彩恵(20歳)

太田母斑で黒くなっている私の白目。昔から大嫌いでコンプレックスだった私の右目。今堂々と笑って説明できるのは、色を笑うのではなく、上から心配するのでもなく、好きと言ってくれた君のお陰です。ありがとう。

### 「別室のない世界」

優秀賞

宮城県延岡市 星野 有加里(40歳)

「先生、別室で話せますか？」緊張した顔で職員室に現れた君。振り絞った君の勇気に感動した。でも、性同一性障害だとか、そういう話を、別室で特別な話として伝える必要が生じる世界を変えたい。先生はそう思った。

### 「今、辛い人へ」

優秀賞

愛知県一宮市 木村 実紀(35歳)

ムダな命なんて一つもないんだよ。辛いことから逃げたっていいじゃない。やめたっていい。行き止まりにも必ずそこに違った道があるよ。探してみよう。「あの時辛かったけど今は幸せ」って時が来るよ。

### 佳作

「言葉の貯金」 大和郡山市 黒田 小夜子(72歳)  
 「認めること」 神奈川県 川畑 ぺん(19歳)  
 「ありがとうの伝染を」 東京都足立区 小野 史(38歳)  
 「ちゃんと見てあげて」 群馬県高崎市 萩原 奈津美(26歳)  
 「親切は心を添えて」 徳島県小松島市 北内 康文(64歳)